

第3回検討委員会 委員意見要旨

平成26年3月14日

(1) 第6次山形県教育振興計画（素案）の基本目標等について

意見者	意見概要（回答または対応を含む）
後藤(恒) 委員	<p>テーマについても、また、資料2の計画素案では、コラムなども散りばめているなど、おもしろいものができそうだ。特に、山形の宝である「縄文の女神」のコラムを取り入れたことはすばらしい。</p> <p>目指す人間像の説明の中で、「自然と文明が調和した理想郷山形」の実現とあるが、この文明という言葉は意識して使った言葉なのか。</p>
【回答】 駒林課長	<p>「自然と文明が調和した理想郷山形」は、第3次山形県総合発展計画の中で究極的な目標として使われている。県の目指すべき方向性と教育振興計画は整合性を図るべきという趣旨で記載している。</p>
柴田委員	<p>資料1について、基本方針が増えている。なるべく単純にわかりやすいものにしていく必要がある。基本方針が増えるほど、インパクトが弱くなる。</p> <p>5教振の目標がわかりやすかった。簡略化できるところは簡略化した方がいい。</p> <p>網羅する観点からいけばこうなるが、校長として、計画に則ってあらゆることをやらなければならないと考えると大変なこと。的を絞ってやるとしても、膨大なものになっている感じを持っている。</p>
森岡委員	<p>素案を見ると、バランスよく記載されていると感じている。</p> <p>基本方針V「変化に対応し、社会で自立する力を育成する」について、経済活動に日々従事している立場として、グローバル化という文言が出てくるが、まさに経済活動はグローバル化しているが、教育活動の根本は、不易のものであると感じている。</p> <p>勤労観・職業観の育成に関わって、「いのち」をつなぐ人では、「いのち」を生命に関わる側面と、生き方に関わる側面に分けて考えた方がいいという話があった。その側面で捉えれば、私たちが日々綿々と繰り返される「営み（両親の働き・祖父母の背中を見て）」が関わってくるのではないか。「いのち」をつなぐストーリーの中に「食べること、住むこと、着ること」を含めた生活、それを支える労働・勤労という流れを加えることができないか。</p> <p>「自尊感情」と「自己有用感」という2つの言葉がいろいろなところに出てきている。自尊感情は自尊心と辞書を引いてしまう、自己有用感はず他人ありきで、他人を思いやる気持ちがあって、自分の存在という風になる。参考資料1-1にも、家庭教育や躰により育まれた、人を思いやる気持ちが自尊感情の高まりにつながる。他者のためにどう行動できる気持ちを持った人間になるかが重要であると指摘されている。</p> <p>我が社の社員教育の第一番に、「利他」「利己」という順番でスタートしている。まず、相手を利さなければ、自分には戻ってこない。グローバルな経済環境上の企業間の活動においても、相手企業の利益が出なければこちらも儲かりようがない。</p>

	<p>黒船家電と言われる外国企業が、アジアやアフリカやヨーロッパの現地のニーズ、つまり相手の気持ちを思いやる技術を製品化できたから今も発展があるという評価がある。</p> <p>グローバル化の中で、変化に強くなっていく人材を育てていくためにも、話の筋書きとして、自己有用感（相手を思いやる気持ち）を前の方に出して、その後に、自尊感情の記載をした方が、現在の変化に対応する人材という意味において、流れがスムーズではないか。</p>
松村 教育委員	<p>民間から見た目、役所から考えることなど、いろいろな人たちの角度から6教振を作り上げていくということを改めて感じた。資料がいつも多く、シンプルが一番いいと常に思っているので、話し合っている内容をいかに先生方や子どもたち、県民のみなさんに伝えていくのかということのを忘れてはいけない。シンプルさを大切に精査して伝えていかなければならないと感じている。</p>
池田委員	<p>基本方針の1つの柱として、スポーツを立てていただいた。</p> <p>スポーツを通じた教育をどうすればできるのかを考えると、細かいことを含めて、基本方針としてスポーツがあった方がよい。</p>
長南教育 委員長	<p>資料1を見て、果たしてこれが学校でどのような扱い方がなされるか、学校が動かなければ計画ができただけではいけない。できるだけ簡素化して、わかりやすい言葉を先生方に伝えていかなければならない。</p> <p>テーマの下の説明が長くてわかりにくい。全体構成はわかりやすく、短い言葉で伝える役割なので、あまりここには説明はいらぬのではないか。</p> <p>目指す人間像の3つの輪の交わりにどのような意味があるのかを考えて作らなければならない。伝わるようにわかりやすくまとめていく必要がある。</p>
出口 委員長	<p>前回までのところで様々な意見をいただき、それを整理していく中で、一度膨れあがらせていくことは仕方のないところと思っている。いただいた意見は、中身に関わっており、整理しながらわかりやすさを追求する段階に入ってきたと考えている。押さえるべきことである、少子高齢化、地域コミュニティの活性化、グローバル化、学力、いじめ等の問題など議論が進んできた。骨子のところはよく出されている。</p> <p>この計画が誰のものなのかということが、これから先、問題となる。委員会や大人の世界で議論してきたが、子どもを育てていく人づくりの面から言えば、学校や家庭、保護者がどう読んで実践していけるかなど、学校現場等とのつながりを考えていかなければならない。言葉を吟味して、計画を示していく必要がある。</p> <p>全体の方向性としてご意見をいただいたところは反映させながら、テーマ、目指す人間像についても、吟味しながらこの方向で進めていき、検討を加えていきたい。</p>

(2) 第6次山形県教育振興計画（素案）の基本方針と主要施策について

意見者	意見概要（回答または対応を含む）
○ 基本方針 I、II、III	
後藤(恒)委員	<p>【追加資料（イメージ図）について】</p> <p>「いのち」をつなぐ教育を推進することで論を展開しているが、p40の主な取組みの「②各学校段階における系統的な『いのちの教育』の実践」という部分と関わって、本日配布の追加資料の中で、乳幼児期から次世代へという形で、3つの目指す人間像のイメージ図を出しており、大変わかりやすくなっている。内容は細かい感じはするが、「いのち」をつなぐ人では、発達に応じた大切な部分がしっかり記載されている。このようなものが追加されることによって、視覚に訴えてわかりやすくなっていく。一層見やすくする必要はある。</p>
呉委員	<p>【基本方針IIについて】</p> <p>人間力の話の中に、新たな価値を創造していくことに取組むということが含まれており、非常に重要と感じている。伝統を大切にすることはなく、伝統を重視しながら新たな価値をつくる、創造力豊かな人を育成することについて、全体的に足りない感じがしている。特に、山形の宝のところについて、高校の事例として小国高校の授業がある。地域文化の授業として、県内の各高等教育機関から先生方に来ていただき、1年生が地域のことを学習している。文化というと山形の宝のような古い文化となってしまうが、その中では、若い人たち自身が地域文化を担っていく、古い伝統文化を伝承してだけでなく、今現実に自分たちが地域づくりに参加していくということを第一にするということで、地域の情報を発信する雑誌を作ってきた。その中で、大切にしたいことは、小国町の新しい資源を使ってベーシックにしていこうとしたり、またぎの文化をベースにして見直したりすることで新しい資源とするなど、取材をしながらレポートしていき、地域の人とつなぎ、創造する活動をしてきたこと。</p> <p>過去の文化を守るだけでなく、いかに未来志向である形にして、地域づくりに結びつけていく視点を盛り込んでいく必要がある。</p> <p>庄内では、小学校で黒松の保全をテーマにして活動してきた。9つぐらいの海岸線の黒松林を有している小学校で行ってきたが、その時には児童自らが課題解決することで新たな価値を見つけることができている。黒松は300年の歴史があり、その中で、森を作った先人やその支える活動を、自分たちも担っていく意識、3年生も地域を創った歴史に参加している意識を持って参加している。</p> <p>文化継承に自分たちも参加し、新しいものをつくっていくという生き活きとした部分を盛り込んでいけないか。</p> <p>また、生活の中にこそ、宝があると考えており、文化財だけではなく、生きた生活の中に残っている宝に関しても、ぜひ、目を向けてほしい。そこでは、世代間がつながっており、先輩から生活の中で、産業・生業の中で継承し、触れ合い、生き方を学んでいる。</p> <p>そのほかに、ふるさと塾について、どのような効果があるのか、課題はないのか、</p>

	<p>盛んになればよいのか、新たな価値の創造、青少年にとっての価値など、振り返りが足りないのではないか。</p>
柴田委員	<p>【記載の仕方・内容について】</p> <p>p 4 0「各学校でいのちの日を設定・・・」、p 5 3「地域に根ざした活動について、各学校の教育計画に位置づけ・・・」は、具体的過ぎる記載となっており、学校としては対応しきれない感覚を持っている。具体的なところをどの程度盛り込んでいくのかを十分検討して、なるべくシンプルにしていく方向で進めてほしい。具体的な施策は後からできるのではないかと思う。</p>
黒田委員	<p>【自立する力について】</p> <p>トレーニング（しつける）、ラーニング（身に付け、覚える）、スタディイング（研究して自分で掘り下げる）の3つの段階があると思う。「いのち」を大切にすることを、初めからトレーニングされていないのにスタディイングすることはすごく難しい。だから、きちんとした人間にトレーニングしてあげて踏まえたうえで、そこからきちんとしたものを身に付けるように覚え、そして、一つ一つのことを掘り下げていくような形になると、自立する力を子どもたちに付けられるのではないか。自立する力に向かわせるには、一番最初のトレーニングのところは欠けているところがあるのではないか。</p>
武田委員	<p>【家庭教育について】</p> <p>家庭教育について、踏み込んで取り上げていただけてありがたい。</p> <p>網羅されていることがありがたい。特に、家庭の在り方が多様化している中、p 6 0「③学習の機会が届かない親に対する支援」のような形で支えていくことは大事なことと感じている。</p> <p>p 6 0「①社会全体で家庭教育に取り組む気運の醸成」については、県民を挙げて取り組むべきことと思っている。まずは、当事者である保護者の意識からつくっていかなければならない。現在、学校の行事とPTAの行事がはっきり分かれている。例えば、PTAと学校が共催で家庭教育に関する事業を展開するスタイルを推進していくことはできないか。学校にとって、家庭が学んでほしいことをPTAに具体的に投げかけて、PTAはマンパワーやお金を使いながら、学校と一緒に家庭の学びにつなげていくような共催事業を増やしていくことは、非常に有効ではないかと感じている。PTAの活動が前年度踏襲型で形骸化しつつあるという指摘がある中で、刺激を与え、活性化を図っていく。また、家庭・保護者の意識を高めていく効果がある。学校が共催ということで、参加率を上げていくことも考えられる。</p> <p>県が旗振り役をし、学校とPTAが一緒に行っている事業で、各学校で何か一つ取り組んでいける形のを提案していけたらいいと思う。</p> <p>また、企業・団体には、家庭教育に部分的に非常に詳しいノウハウを持っている企業・団体がたくさんある。例えば、前回の山形県のPTA連合会でネットの安全に関する講習会を行った際、GREENやLINEの会社などの企業を呼んでパネラーとしてご発言いただいたが、社会が非常に懸念していることに対する答えを持っている。保護者が活用できるノウハウなどを提示いただき、非常に勉強になった。</p>

	<p>もっと企業や団体が持っているノウハウを吸い上げる形を県としてつくっていけないか。例えば、家庭教育に関してノウハウのある企業をリストアップし、データ化していけないか。以前の活動で、山形酸素株式会社より、安全教育の一環として、テントの中に無害な煙を充満させ、その中でどんな行動をするかなどを体験できるものを無償で貸していただいたことがある。そのような企業をリストアップし、情報として提供することをやっていただければありがたい。</p> <p>学校と家庭が活性化する例も記載できるといいと感じている。</p>
酒井委員	<p>【「いのち」をつなぐについて】</p> <p>「いのち」をつなぐということを大きく取り上げていることに感謝している。</p> <p>「いのち」を継承することを子どもたちに学ばせていくには、家庭が非常に大事な部分である。学んでいる人たちもそれぞれ家庭を持っており、家庭の中で様々な学びがあって、子どもたちが将来こんな家庭を作りたいと思えるような「いのち」をつなぐ役割を持っている。</p> <p>p 60 「④次代の親としての家庭観の醸成」については、もっとクローズアップした方がよい。一人っ子の様子を見ると、核家族の中の一人っ子の育ちは遅い。人にゆずることや順番をしっかりと待つこと、我慢をすることなどが育っていない。また、上学年や下学年に対して、どのように接すればよいか育っていないまま就学する。そんな時に、幼児との触れ合いや縦のつながりの中での上学年の教えなど、体で体験することを大きく取り上げることで、今、家庭では学べない、人を大事にする心や小さい子をいたわる心が育っていくと思う。</p> <p>身近な者からの体験的な学びが、子どもたちにとって、確かな力になっていく。まさに、人間力の基本のところは、日常生活の中で培われていく。日常の営みの中からこそ、子どもたちが確かな学びをしていく。それが、「いのち」を大事にし、「いのち」をつないでいく人につながっていく。</p> <p>ふるさと教育については、前から読んでいくと少し違和感があった。後ろに「地域とつながり続ける人」と大きな柱があるので、これは後ろに持っていったらどうかと思う。</p> <p>校長会において、6教振の進み具合を聞かれると、自分の頭が整理できないでいることに気づく。「いのち」、学び、地域、つながりとキーワードまでは言えるが、基本方針がたくさんあり、網羅されているとしか言えない自分がある。重点を決めて、県民を挙げて、学校・地域でも取り組んでいけることを、わかりやすく出されることが重要である。全てを網羅した形で出されると、それぞれの学校で何を重点にしていけばよいかわからなくなる。このことだけは、どの学校でも、どの子どもにも教育していこうというようにもっと絞り込めたら、大変わかりやすく、取り組みやすいものとなる。</p>
後藤(敬)委員	<p>【「いのち」の日について】</p> <p>「いのち」の日は、学校と家庭で、子ども自身の存在を認めることができる日になればいい。「いのち」の日は、ぼくやわたしの「いのち」の輝く日という風にして考えていったらよいと思う。</p> <p>小さな頃から家族と一緒にやってきたこと・身に付けてきたことが誇りとなり、</p>

	<p>自信となる。自信も小さなところから少しずつ身に付けていけば、具体的な形になるのではないか。「生きるなら山形県」という風に、輝いて生きる自分につなげていけたら、この目標が子どもの世代だけでなく、親の世代にもつながっていく。具体的に言えば、ある家族では1年間米を育てる、ある家族では雪囲いをするなど、小さな継続を家族で積み重ね、アドバイスしたり関わって言葉を交わしたり、親や家族が一緒に行っていく。輝いて生きる親や家族の姿を見せて、尊敬できる存在となっていく。</p> <p>家の中から始める小さな教育を積み重ねていく。</p>
栗田委員	<p>【「いのちの教育」について】</p> <p>現在、農業の分野では、構造改革により現場が非常に変化してきている。そこを県民の皆様にはわかってもらう必要がある。</p> <p>グローバル化により、お金だけあれば良い、コストを安くすれば良いといった考えが国全体に広がったときには、共同・共有による「いのちの教育」の大切さについて、いろんな分野の方々が総結集しなければならない。守るべきところは守るといふ実践行動をしないと、いくら良い文章で計画が書けたとしても、大事な部分が失われていくのではないかという危機感を持っている。</p> <p>なぜ、有機農業を推進しなければならないのかを考える必要がある。現在、有機農産物は国全体で0.4%の割合しかない。国と県が1%にまで推進すると掲げているが、たった1%である。身近に県民がわかっていない部分があるのではないか。</p> <p>地産地消を大事にするという基本的な部分をもう一度見直し、身近な家庭からの教育を基本とした「いのちの教育」の推進をしていきたい。</p>
黒田委員	<p>【山形の良さについて】</p> <p>山形は、身近に素晴らしいものがあふれている。山形の自然はかけがえのない教材であり、こういうことができるのは山形県だけである。</p>
柴田委員	<p>【いじめ防止について】</p> <p>p 43のいじめ防止に向けた取組みについて。確かにいじめ防止も大事であるが、果たしてそれだけで良いのか。いじめ防止を掲げ、学校はいじめがあることを前提とした指導をしていかなければならないが、いじめは人間関係の問題であり、子どもたちにそこを乗り越える力も付けていく必要がある。</p>
千葉委員	<p>【「いのち」をつなぐ人について】</p> <p>乳幼児期から「ありがとう、ごめんなさい」などが言える子どもであることが大切。他人の痛みがわかる子どもに育てるためには、子どもの現状を見て、親、先生、周りの大人が口先だけでなく、「ありがとう」という態度で毎日接していることで、優しい子どもが育ち、周りが違う環境でもそのようにしなければならないという意識が子どもに醸成されると思う。</p> <p>また、小さい子どもには自己アピールも必要であるが、その自己アピールの限度を周りの人の声を聞いて自分で判断できるようになるかは、乳幼児期によるところが大きいため、追加資料の『「いのち」をつなぐ人』を広く県民に提示し、伝えていければと思う。</p> <p>【家庭教育について】</p> <p>p 60②の部分について、自分が愛されている、大切にされているということは</p>

	<p>非常に重要である。病気になってしまったときや困難な状況になったときに、周りが寄り添う態度をとることも大切である。子どもに寄り添う教育について、親への理解充実のための機会をぜひ設けてほしい。ハローワークに行くと、パートを探している保護者が多くいる。その保護者の方々に向けての講習会をハローワークの中でも行う機会があると良い。仕事だけでなく、子どもたちをしっかりと見ながら働く意識の大切さを保護者に伝えていければと思う。</p> <p>【幼稚園教諭の教育力について】</p> <p>幼稚園教諭も10年置きに免許更新講習を行っており、さらに、それだけでなく、資質向上のために勉強する機会を設ける時間が必要になるが、多忙でなかなか難しい。予算が厳しいとは思いますが、園に一人多く配置してもらえるような施策をしていけると余裕を待って勉強に取り組むことができ、資質向上につながるのではないかなと思う。</p> <p>最後に、幼保小連携について、幼稚園の先生方が小学校に行って話を聞いてくるというだけではなかなか理解することが難しい。小学校の先生方も同じであると思うので、公開保育や公開授業とまではいかななくても、一緒に授業、保育を見ることが出来る機会を年に何回か位置づけるカリキュラムにしていくと、より充実したものになるのではないかな。</p>
<p>岡崎委員</p>	<p>【家庭教育、幼児教育について】</p> <p>保育所で乳幼児期の子どもたちを預かっている身としては、子どもの育ちと保護者の子育てを支え、家庭と連携していくことが一番の役割であると思っている。そういった意味で、素案では保護者との連携の部分が弱いと感じた。今は乳児保育も当たり前で、1歳児の待機児童も非常に多いので、幼児教育ではなく、「乳」幼児教育でなければならないと思う。</p> <p>幼児教育という言葉が大きくクローズアップされているが、なかなか保護者には伝わりにくいのではないかなと思う。知識や特別な技術の早期獲得のみを目指すような教育になってはいけないので、特にその部分を保護者に伝えていかなければならない。</p> <p>県では、「子育てするなら山形県」と掲げているが、なかなか実際には見えてこないで、p60にある主な取組みを具体的に実施してほしい。</p> <p>幼保小の連携では、接続だけでなく、連続性ということを大切にして、夢や希望を持った子どもたちを育てていければと思う。</p>
<p>○ 基本方針 IV、V、VI</p>	
<p>笹原委員</p>	<p>【授業づくりについて】</p> <p>社会を生きぬく確かな基盤となる学力を身に付けさせるには、授業づくりが大事だと思っているが、なかなか中学校の授業は変わらない。中学校の場合、生徒指導や部活動指導に重点が置かれ、ややもすると授業の重みが薄くなることもある。</p> <p>新庄中において授業づくりを核とした学校づくりについて取り組んできたが、これをやったら授業が変わったというものが3つある。</p> <p>1つは、各学校で行っている授業研究会の回数。授業研究会とは、一人の先生が提案授業をし、他の先生がそれを見て自分の授業の参考にするために、放課後に事後研究をするというもの。この授業研究会を、多くの学校では年間2～4回程度行</p>

	<p>っているが、10回以上はしないと効果がないと感じている。回数を増やすことは大事だと考えている。</p> <p>2つ目は、授業研究を自分達だけでしていると壁にぶつかってなかなか授業が変わっていかないことがある。新庄中では、山形大学の江間先生、森田先生、樋渡先生、学習院大学の佐藤学先生から指導をいただいている。そうすることで授業研究会が深まり、先生方の授業を変えていこうとする意欲につながっていく。授業研究会に先生方が熱心に取り組めるようにするためにも、大学の先生など学校の外の指導者に来ていただき、事後研究会を充実させることが大切だと感じている。</p> <p>3つ目は、授業の課題のレベルについて。教科書レベルの課題のみでやるのではなく、それを超えるような課題づくりに取り組まないと、授業が変わっていかない。</p> <p>例えば、中学1年の数学の授業で高校入試の問題に挑戦させたり、理科でiPS細胞を題材に細胞分裂の授業を行ったりするなど、教科書の内容を基礎として、それを超えることをやると生徒がより深く理解すると感じる。</p> <p>社会を生きぬく基盤となるような学力をつけるための授業に変えていくことは、1, 2年では難しいが、5年10年の単位で少しずつでもいいので授業を変えていかないといけない。そうしないと今の社会に通用する力がなかなか育たないのではないか。</p>
酒井委員	<p>【山形教育「さんさん」プランについて】</p> <p>「さんさん」プランの恩恵についてお話したい。本校で、昨年度は66人で2クラスの学年があり、今年度67人になり3クラスになった。昨年度は新規採用の先生が33人を受け持ち、相当苦勞していた。今年度になって1クラス20数名になり、手のかかる子が数名いながらも子どもの顔が良く見えるようになり、子どもにしっかり対応できるようになっている。授業の中で子ども達の意見を吸い上げやすくなったり、いいコミュニケーションが取れるようになり、授業づくりがよくなった。これは「さんさん」プランの恩恵を一番いただいたケースだと感じて感謝している。</p> <p>p76(1)の例にある「34人～40人の学年単学級の解消」が実現できればもっと救われる教員・子ども達がたくさん出てくるのではないかと思います。</p> <p>30～40人と20～30人では物理的に手のかけ方も違い、困り感を持った子どもへの対応もできるようになる。この部分については環境整備という中で一番今後の課題になるのではないかと。国に先んじてやってきた県として、34人～40人の学年単学級の解消の部分が大きな課題となると考えている。</p> <p>p77ではコミュニケーション能力の育成について取り上げている。小さいときからコミュニケーションの能力が足りないことで苦勞している子ども達がいて、それが学力に影響していることは現場でも感じていること。</p> <p>【授業づくり、学級づくりについて】</p> <p>p79確かな学力の育成(1)の①と②は、逆に記載する方がいいのではないかと。担任力の中でも記載があるが、いい学級のもとではいい授業ができ、それが学力向上につながる。一人ひとりを活かした楽しい授業をすると学力のアップにつながることを感じているので、それがまず先にくるといいのではないかと。</p>

	<p>学力アップの関係でいうと授業改善については、学校の永遠の課題であり、授業が上手な先生は学力も上げられるし、生徒指導の力も、特別支援の力もあるが、そこまでの力はなくても子ども達が生き活きと学べる方法の一つに協同学習がある。小さなグループの中でわかる子がわからない子に教えるという学習だが、一見わかっている子にとって無駄な時間に見えても、わかるように教えるために思考することが教える子にとっての理解をさらに深めることになる。また、一斉学習で浮かび上がらなかつた理解に時間がかかる子も身近で気軽にわからないことが聞けることで、意欲が持続し、主体的に取り組めるようになる。こういう協同学習についても、もう少し大きく取り上げてもいいのではないかと。</p>
<p>柴田委員</p>	<p>【授業改善について】</p> <p>高校でも授業を変えるのが一番難しく、このために様々なことをやっている。</p> <p>p 78①に「小・中学校において」とあるが、高校も課題解決の授業に切り替えていかなければならないと思っている。高校はむしろ小・中よりも講義型の授業が多く、熱心に教え詰め込むが、教科の研究大会や全国の大会に行くと、地方と都市部では随分違っていることを実感し、このままでは取り残されるという焦りすら感じる。</p> <p>どうやって変えていくかということについて、SSH（スーパーサイエンススクール）に指定されて先生方が変わり始めている。SSHは県内2校のみで、GH（グローバルハイスクール）にも手を挙げているが、こちらも県内では2校のみ。こういう状況では、外から変えるしかないのかと思っている。SSHやGHに認定されると詳細な計画を立て、それに応じた授業をやらざるを得なくなる。また、先生方が県外に出て行き、県外の授業を見て変わるということがある。小・中においても、先生方が県外に出て授業を見るといった機会も作る必要があるのではないかと。</p> <p>【大学残留率について】</p> <p>p 91に高等教育の充実について記載があるが、大学残留率の問題が述べられているが、これについては難しいと感じている。県内の残留率について求めながら、実際は難関大学進学へ向けての対策を取り、県外に人が出て行くという矛盾についても考え、対策をとっていく必要があるのではないかと。</p> <p>【ICT教育について】</p> <p>ICT教育の落とし穴についても考えていく必要があると感じている。高校の場合、理科の実験がICTに取って代わられている。実験をする時間がないので、見て終わりとしている現実もあり、果たしてそれでよいのか検証していく必要がある。</p> <p>【小・中・高の連携について】</p> <p>小・中・高の連携について、とても大切だと考えている。特に、中・高の文化の違いを感じることもある。そのため、幼・小・中・高を通した県としての目標設定をきちっと作り、教科ごと何をするかということが見えると、中・高の連携についても、そこから先に何をやっていけばいいのかということがはっきりしてくるのではないかと。</p>
<p>落合委員</p>	<p>【図書館司書について】</p> <p>小学校で司書の仕事をしているが、我が校では、自分で課題を見つけて調べ、そ</p>

	<p>れを表現していくことが小学校から行うことが必要だということで、そのような調べ学習を先生方が子ども達にさせるよう指導している。そのためには司書が必要となる。担任の先生だけでは難しい。小学校のうちから資料を読み取って、まとめていくという言語力が付いていき、それが中学校・高校でも続くと、グローバル化に対応できる言語力が身に付くのではないか。そういった人間力が小学校のうちからついていけば日本の教育も変わっていくのではないか。</p> <p>p 80、81に読育の充実について記載をしているが、小学校にも司書を配置してほしい。また、調べ学習をするための先生方の研修もしていく必要があると思っている。</p>
森岡委員	<p>【勤労観・職業観について】</p> <p>昨日、来年度の学卒・院卒に向けた会社の説明会を行った。p 99に就職のミスマッチや高い離職率について記載があるが、説明会での学生からの質問の中で、自分に適する仕事があるか、希望すればその職場にいけるのかという質問があり、仕事というのは、その人のために会社が仕事をカスタマイズして用意するものではない。みなさんが仕事を通じて自分の才能や輝くポイントを見つけ、自分の居場所をつくるというのが本当の自分探しではないかと伝えたところ。</p> <p>フリーターや早期離職者が問題になっているが、現在の社会の変化に対しては、ある意味において自然なことなのかもしれない。逆に、今の社会が多様な価値観に応えることができるような働く場を用意できていない側面もあるのではないかと感じる。欧米の場合は、自分のスキルが上がると次のステップに向けて転職することが当たり前であり、自分を高めるために自ら変化を作り出す人は、これらの意味において変化に強い人と言えるかもしれない。経済がグローバル化し、多様化していく中で、転職に対する社会の意識や企業にずっと留まって欲しいというこれまでの価値観について見直す必要があるのではないかと感じることもある。</p> <p>働く女性については、様々な時代の要請に応えるための組織、体制などの環境の変化の中でも、非常にたくましいと感じている。女性は子育てや家事そして仕事を含め同時並行処理をする能力が非常に高い。様々な事象や変化に対応するスピードや受け止めが非常にしなやかである。</p> <p>変化に対応できるたくましい社員を見ていると、出したものを片付けるなど当たり前のことを当たり前に繰り返しできる力を持っている。そういった社員は、変化に対応する能力やコミュニケーション能力が高く、相手の状況を先に考える力がある。一方、自尊心が高いと感じる社員は、自分の権利と自由は主張するが、責任と義務を果たさない、続かない、ふて腐れる。そんな傾向を感じている。</p> <p>学校におけるいじめは企業ではハラスメントにあたるが、この問題は、ほとんどの場合、最終的にコミュニケーション能力がないということに行きつく。</p> <p>相手の気持ちを考える力があるかどうかということが大切になる。</p> <p>最後に、指標として、内定率が今までも取り上げられていたと思うが、勤労観の育成や、社会で自立できる力を育成するという課題の達成指標が内定率にならないようにお願いしたい。親や身近な人の働く姿を見て仕事に興味をもった子の比率などで十分なのではと思っている。</p>

<p>黒田委員</p>	<p>【グローバル化について】</p> <p>最近、フィンランドの高校生を預かる機会があった。フィンランドの教育は、先ほど落合委員がお話されたように、自分が何か興味を持ったことに課題を見つけて、自分で調べ、掘り下げるということを大事にし、それを周りがサポートし、自分自身でやる力を育てている。留学生の高校生は、小学校6年生で自分が興味を持った日本の武将についての論文を書いていた。一つのことを掘り下げることを通して得たものは計り知れないものがあると感じたところ。</p> <p>グローバル化とは、相手に敬意を払うことではないかと思っている。ホームステイで受け入れた外国人も相手に対する敬意がすばらしいと感じている。敬意を払うためには、相手を思いやり、相手の国のことを知り、自分自身がさすが日本人と思われる人になることが大事で、それがグローバル化の出発点になるのではないか。その基盤となるものは教養だと思う。教養というのは、どの分野のものでもよいので興味を広く持ち、そしてスタンダードになるもの・価値のあるものを見出す力を養わせることが大事なのではないか。フィンランドではその力が養成されている。</p> <p>小学校・中学校の先生にたくさんお会いしているが、みなさんすばらしい趣味を持っている。その趣味を教育にもっと活かせるのではないか。</p> <p>英語の学習はもちろん必要ではあるが、グローバル化の側面からいうと相手に敬意を払うことを前提として、英語というのはツールとして役立つものだということが知って欲しい。自分の興味あるものができたとき、そこで英語が必要となれば英語はできるようになる。</p> <p>深く掘り下げて勉強することが大事なことに関連して、卒業研究を通して学生はとても成長することを考えると、大学生が3年生で就職活動をするのはとてももったいないと感じている。そして、小学生については、キャリアパスの中で何が必要なのか、そのためにはこういう勉強が必要だということがわかるといいと思う。</p> <p>また、山形にはカッコいい大人がたくさんいる。子ども達にカッコいい大人をたくさん見せる機会を作って欲しい。</p> <p>【ICT教育について】</p> <p>デンマークの人など外国人に会うと、あなたはボランティアやセカンドビジネスで何をしているかを聞かれる。それに応えられないと国際社会では違和感がある状況にある。ICT教育の推進といっても、これを先生方が全てやるのは大変だと思うので、得意な方たちにボランティアやセカンドビジネスの形でやっていく形を山形で作れば先進的な取組みになるのではないか。</p> <p>【環境教育について】</p> <p>環境教育については、まさに山形県でできることだと思う。米沢では屋敷畑があって、フードマイレージゼロの生活がある。この生き方は、これからの持続可能な最先端の生き方であり、県内にはそういった暮らしがたくさんある。そういうことを子ども達が言葉にして理解することで、自分たちの県がすごいということを自覚し、自尊心につながるのではないか。</p>
<p>後藤(恒)委員</p>	<p>【特別支援教育について】</p> <p>特別支援教育に関する部分がp95から記載されているが、各市町村教育委員会</p>

	<p>で最も大きな課題となっているのが特別支援教育。この資料を読むと、県が何をやるのかという部分が少ないと感じる。ほとんど学校がすることについて記載されているが、もっと県として支援できる部分、特に人の配置について前向きな記載が欲しいと感じたところ。</p>
<p>○ 基本方針 VII、VIII、IX、X</p>	
角屋委員	<p>【県立博物館について】</p> <p>素案にも記載されているように、今後の機能強化に期待を持っている。</p> <p>裏表紙の「縄文の女神」は、「いのち」としても象徴的な存在であるが、その住まいである、博物館は十分な対応ができる状態とは言えない。その老朽化を考慮すれば、多額の経費は見込まれるものの、施設設備の更新に向けて前進させてほしい。</p> <p>また、ハード面の強化に併せ、ソフト面を充実することも重要。博物館は、物を収納するためだけの施設ではない。建物を更新するのと並行して内容充実を図り、素案の主な取組みにもあるように、その魅力を県内外に発信するなど、積極的に活用してほしい。</p> <p>それにより、地域とつながる拠点となり、生涯学習の場としての役割も担う重要な施設であるということをしっかり認識して取り組んでほしい。</p> <p>【県立図書館について】</p> <p>公文書館は、情報公開が進んだ現在では、1県に1館の設置という動きもあった中で、山形県は実現できなかった数少ない県の一つである。そのため、県史を編纂する際に、古文書が無いなど対応が困難なこともあった。</p> <p>古文書は、偶然に残るものもあるが、本来は、残そうという意志があって残るもの。例えば、今の6教振のために協議したことすら、意志がなければ残らないし、次の時代に引き継げない。つまり、古いことに限らず、現在をどうつないでいくかという問題でもある。ぜひ、その設置に向けて前向きに検討願いたい。</p> <p>【郷土・地域とつながる】</p> <p>山形県が誇るべき方言や郷土料理など、それが自然に身に付き、引き継がれていくことが大事。博物館や図書館が、それを補助する役割を果たすと思うが、それが各地域にあって、自然とつながりを持つ環境にあるのが望ましい。</p>
鹿又委員	<p>【地域コミュニティ形成について】</p> <p>「主要施策22」公民館について、現状と課題をみると、運営論だけが強調されているように感じる。できれば、住民に対して多くの機会を提供し、意識改革を図りつつ、それが社会教育の「運動」につながるような取組みにすべき。</p> <p>主な取組みの内容をみると、相談体制の充実や拡充などの記載が目立ち、公民館の運営論に終始しており、具体的にどうすればいいのかが分からない。</p> <p>公民館等にこういった素材や材料があるということ、また、その活用例や、時代に合って必要とされるものを創造するなどを示してもらえれば、よりわかりやすいのではないか。</p> <p>【ジュニア・リーダー活動について】</p> <p>小学生の地域活動に対して、中学生の地域活動への機会が非常に少ないと感じる。</p>

	<p>もちろん、塾や部活動の影響など一定の制約はあるが、ある程度の強制力を持った機会の提供でないと地域活動の活性化は図れない。</p> <p>山形県内17の青年会議所(会員800名(20-40歳))では、自らの会費により「青少年育成事業」を年間を通して実施している。我々と連携し、子ども達にも当該事業に触れてもらうことで、それが青少年の意思形成につながる。人材育成の取組みとして、ぜひ活用してほしい。</p>
池田委員	<p>【健やかな体の育成について】</p> <p>自らも新しい命の誕生を迎える身になって、この計画に対する関心が高まると同時に、策定に関われる幸せを感じている。今の我々は、未来から託されている責務があるという自覚を持つべき。</p> <p>中学校の教員は、体育授業や生活指導、運動部活動もあって負担が大きく、そのいずれについても高いレベルを求められるのは厳しいのではないか。スポーツ1つをとってみても、経験のあるなしでは、全く違う。</p> <p>また、幼・小・中・高の連続性も大事。それぞれで区切るのではなく、例えば、中・高で部活を一緒にやるのもいい。ことスポーツに関しては、学校所属という側面が強い。競技大会に参加するにも、学校として、又は引率の教員がいないと参加できないなどの現状もある。そういうことも踏まえ、部活動の運営方法等を改善できればいい。</p> <p>【スポーツの推進について】</p> <p>ドリームキッズで実施されているプログラムの内容は多岐に渡っていて、必ずしも運動の仕方や競技の体験だけではない。食育や子どもの保護者向けのプログラムなど、その内容を詳細に記載したほうが良い。ドリームキッズで取り組んでいる内容は、他の施策や様々な分野とも連携・連動したりすることも可能である。</p> <p>スポーツを通して、どんな人に育ってほしいのか、はっきりわかると目指すものも見えてくる。そういう意味からも、テーマの設定も非常に大事だと思っている。</p>
武田委員	<p>【学校と家庭・地域との連携・協働について】</p> <p>主要施策20「学校と家庭・地域との連携・協働」について、これまでも見聞きしたことのあるような内容が並べられているが、県として力を入れていきたいという部分が見えてこない。例えば、学校支援地域本部は、現在頭打ちであるし、これまでの経験から、何が普及のネックとなっているのかわかっているはず。仮に、市町村において学校予算が不足しているなどがあれば、予算が少なくてもできる活動など、具体的な取組みを例示して、状況が改善していくような方向性を県が作っていく必要がある。ぜひ、課題が解決するためのリーダーシップを県がとってほしい。</p>
柴田委員	<p>【普通科単位制高校について】</p> <p>p109「④ウ」に普通科単位制高校を県内8地区に少なくとも1校ずつ配置できるように検討するとあるが、単位制高校という制度の意義を吟味し、16～18才の生徒に合った制度を検討する必要があると思う。山形県で完全単位制高校を導入しているのは通信制高校・霞城学園・定時制の一部のみである。全日制で導入しているのは、進学重視型単位制であり、学年制と近い形での運用が行われている。完全単位制高校は、自分で時間をコントロールしないといけないので、導入するのは</p>

	なかなか難しいのではないか。
小嶋 教育委員	<p>【郷土の先人について】</p> <p>基本方針Ⅱ「郷土に誇りを持ち、地域とつながる心を育成する」に関連して、郷土の先人を継承する会が米沢市にあり、私が会長を務めているが、教育の中に郷土の先人をもっと取り上げてほしい。教育の中で、人を取り上げる機会が少ないと感じている。人に学んで生きていくのが基本である。子ども達にああなりたいと思うような立派な生き方を示してあげることが大事である。ふるさとへの愛情や誇りにもつながっていく。会では、今後、米沢市名誉市民第一号の伊東忠太博士を取り上げていこうと考えている。</p> <p>子どもにどういうふうに育ってほしいのかという具体的な記載がない。戦前であれば教育勅語という規範があった。戦後、価値観がばらばらになってしまい、子どもにどのように育ってほしいのかということも誰も具体的に言っていない。このような人間に育つようにという具体的な規範が必要なのではないかと思う。それをもとに人間形成を図ることがあってもよいのではないか。</p>
長南教育 委員長	<p>市町村の教育委員会の教育長や、学校の校長先生、教職員の方から好奇心を持って読んでいただき、何かやりたいなと思ってもらえるような計画にしていきたい。いただいたご意見を踏まえ、これから見直しを行い、できるだけ行政と実態がつながる計画にしたいと考えている。</p> <p>計画の書き方について、県と市町村、学校の役割がわかるような計画の書き方をすれば受け入れられる計画になるものと考えている。</p>
出口 委員長	<p>変革期の教育と言われているが、まさに6教振もその1つである。教育県山形が問われており、教育県たる所以をしっかりと取り上げていくことが必要である。</p> <p>① 教育というものが、過去 → 現在 → 未来につながっていくものだとすることをしっかりと認識した上で、6教振につなげていく必要がある。受け継ぐだけでなく、新しいものをつくっていくという作業をしているということを感じさせてもらった。</p> <p>② 多くの方から、それぞれの専門分野から意見をいただいたが、こうした意見を横につなげていく必要がある。その際、往復するだけではなく、まとめていく作業が必要であり、簡素化やスリム化を通し、骨太のものになっていくものと考えている。委員からも協力をお願いしたい。</p> <p>③ 意見をいただいたところについて、言葉を吟味して鍛えていく必要がある。市町村、学校、保護者、地域につないでいくため、内容を掘り下げていく必要がある。</p>